

巻頭言

コロナ禍の一年

跡見学園女子大学心理学部臨床心理学科
学部長 野島 一彦

令和2(2020)年の初頭から、わが国は新型コロナ(COVID-19)の感染拡大が始まり、跡見学園女子大学では同年3月の卒業式は中止され、4月の入学式も中止となるという異常な事態が生じた。4月からの新年度の授業は対面授業ができず、遠隔授業にならざるを得なかった。ただ、11月からは1年生のプロゼミと4年生の臨床心理学演習は回数だけ、対面授業が導入された。令和3(2021)年1月にも再び緊急事態宣言が発出された。新型コロナの終息はなかなか見通せず、2月に大学は来年度の授業は対面授業と遠隔授業を組み合わせるハイブリッド授業とする方針を出している。3月の卒業式は、感染予防をしながら、文京シビックセンターで実施の予定である。

この1年は、大学の教育活動は、従来までの対面授業が行えないという異例の1年となった。ただ、対面授業ができないというデメリットはあったが、遠隔授業という新たな教育方法を模索・試行することを通して、遠隔授業についてのいろいろなノウハウを獲得する機会にもなった。現在はコロナ禍なので止むなく遠隔授業をせざるを得ないが、今後コロナ問題が終息した後にも、遠隔授業を積極的に活用していくことも考えられる。今回のコロナ問題は、教育活動の幅を広げるきっかけとなったとも言えよう。

ところで今年度は心理学部が設立されて3年目であった。心理学部設立にあたり、国家資格である公認心理師養成に対応したカリキュラムがつくられた。そのカリキュラムにしたがって順調に学年進行をしている。今年度は3年生で公認心理師をめざす29名が、学外実習である『心理実習』(医療・保健医療・福祉領域の「心理実習A」と教育領域の「心理実習B」の2科目で構成)を行った。コロナ禍ということで、多少不便さはあったが、全員が無事に実習を終えることができた。

暗い状況の今年度ではあったが、明るいこともあった。それは、4月から特任教授として鈴木真理先生が赴任されたのである。鈴木先生は内科医で、とりわけ摂食障害の専門家である。授業としては、「ストレス・マネジメント」、「健康教育概論」、「心理実習C／心理学臨地実習A」の担当である。

臨床心理学の「臨」は〈臨機応変〉の「臨」であると言うのは私の口癖である。コロナ禍というこれまで体験したことがない厳しい状況であるが、学部長としては、心理学部は〈臨機応変〉にいろいろ工夫して前進していきたいと考えている。